

J A P A N C O A S T G U A R D F R I E N D S H I P C I R C L E

海上保安友の会香川支部だより

ゆうなぎ 第13号

第13号の掲載内容

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 海上保安友の会香川支部行事報告 | 4. 夏のできごと |
| 2. 職員紹介(つづき) | 5. 高松保安部からのお知らせ |
| 3. 香川の「海猿」 | 6. 事務局からのお知らせ |

1. 香川支部行事報告

(1) 長崎の鼻海浜清掃



長梅雨最中の7月8日屋島突端の長崎の鼻において海浜清掃を実施しました。開催直前まで雨模様が気になり、開始直後も小雨がぱらつきましたが、清掃作業中には日も差し、暑いぐらいの良い天気にかわりました。友の会会員、高松保安部職員、それに「海守」の会員も加わった約100名で約2時間作業しました。清掃前にはうんざりするぐらいの大量のごみが漂着していましたが、大勢のマンパワーはすさまじく、ポリ袋100枚ほどのごみがあつまり海岸は見違えるようにきれいになりました。

また、親子で参加された方々は保安部の大西官の指導の下、漂着ごみの分類と計測作業を体験し、ごみの種類を観察しながら海洋環境を維持する大切さを実感していました。



大量のごみに！

集めるとこんなに

そしてきれいな海岸に！

(2) 海上保安大学校・呉大和ミュージアム見学会

秋本番にさしかかる9月30日、広島県呉市にある海上保安大学校、および呉大和ミュージアムの見学会を実施しました。友の会会員39名、保安部職員8名を乗せたバスは高松を朝の8時に出発し、瀬戸大橋をわたって山陽道をひた走り、12時すぎに呉大和ミュージアムに到着。3Fある展示スペースと野外展示物などを約2時間かけて見学しました。メインの戦艦大和の十分の一スケールの模型



は評判どおりの迫力で、そのほかにも太平洋戦争前後の呉における海軍工廠を中心とした歴史を紹介しかコーナーや、ゼロ戦、人間魚



雷「回天」など当時の兵器を展示したコーナーが設けられ、瞬く間に2時間が過ぎました。番外編としてミュージアムの前に来年展示公開予定の海上自衛隊の退役潜水艦「あきしお」が鎮座しておりました。前日陸揚げ作業が終わったばかりで展示のための作業が始まるとのことですが、陸揚

げされると潜水艦の大きさが実感できなかなかの迫力でした。

見学終了後バスで10分ほどで海上保安大学校に到着。はじめに資料館にて、平成13年の奄美沖での不審船事案に関するビデオを見た後、当時被弾した巡視船あまみの船橋前方の実物を見学しました。海上保安大学校事務局の河内係長の説明を受けながら、当時の生々しい状況に思いを馳せました。その後、敷地内の建物を見学。海上保安大学校卒業生でもある同事務局の林課長の案内で各建物や中での生活状況の説明も受けました。敷地内の岸壁には練習船こじまの姿も見えま



したが、残念ながら外からの見学となりました。短い時間ではありますが普段目にすることのない海上保安大学校の一端を垣間見ることができ、海上保安庁に対する理解もいっそう深まったのではないのでしょうか。

帰路も特に渋滞もなくスムーズに走れましたが、それでも高松に戻ったのは夜の8時。参加者のみなさま、お疲れ様でした。



海上保安大学校本館モニュメントの前にて

2. 職員紹介(その2)

前回紹介出来なかった坂出保安署長、小豆島保安署長と9月に着任した坂出保安署巡視艇あやなみ船長の自己紹介です。

坂出海上保安署長 大藪 修

本年4月に坂出海上保安署長を拝命しました大藪と申します。

私は、昭和40年春に海上保安学校を卒業して、高松保安部を振り出しに、十一管区、山口県、愛媛県、広島県の12の保安部署を渡り歩き坂出が最後となりました。

坂出保安署勤務は、4回目でありまして巡視艇勤務をはじめ署員、専門官、次長、署長まで全てを経験したという変わり者です。

私の信条は「いつでも全力投球」です。後1年で定年退職となりますが最後まで全力投球で香川県西部海域を死守する覚悟がありますので皆様のお力添えをお願いいた

します。

退職した暁には「海上保安友の会香川支部」に入会し、皆様とともに活動したいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

略歴

H10年4月	岩国海上保安署次長
H13年4月	坂出海上保安署次長
H16年4月	今治海上保安部警備救難課長
H18年4月	坂出海上保安署長

小豆島保安署長 難波忠志

本年4月1日付けで小豆島海上保安署長に就任しました。出身は岡山県の山猿です。高松保安部には昭和46年頃と平成6年頃

の2回勤務しております。最初に勤務した若かりし頃に今で言う「海猿」を経験していますが、山猿故に大した実績は残すことができませんでした。

既にご承知と思いますが、当保安署は4月1日から小豆島海上保安署と名称を変更しております。従来の坂手保安署同様、地域の皆様に信頼され、親しまれる海上保安署で在り続けるよう努力してまいりますので、これまで同様ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

また、お近くの方は気軽に事務所に立ち寄っていただき、色々お話を聞かせていただきたいと思います。

(略歴)

H6年10月 高松保安部航行安全課専門官
H11年4月 水島保安部航行安全課専門官
H14年10月 六本部運用司令室主任運用専門官
H16年8月 六本部交通部安全課専門官
H18年4月 現職

巡視艇あやなみ船長 道山 元

9月1日付けで、稚内海上保安部巡視船「れぶん」

から坂出海上保安署巡視艇「あやなみ」船長として赴任しました道山元と申します。

出身は熊本県、これまで北海道、東京、福岡で勤務して参りました。

実は、多くの友の会の皆様同様に、私も帆走巡航が趣味であり、熊本県八代ヨットクラブに約25年所属し、年に数回、愛艇の林27を繰って天草クルージングに興じているもので、ここ瀬戸内にあっては、大学時代に約2週間かけて呉—小豆島間のカッター漕艇巡航を2回楽しんだこともあり、公私共々生活に適した坂出赴任に喜びを感じているものです。

ご存知のとおり瀬戸内海は、経済大国日本を支える海運物流の大動脈、日本の魚類タンパク源保持の為に重要な海域、故野本謙作氏曰く日本の帆走文化発祥の地勢故に、本職、職責を有難く全うさせて頂きたく、皆様にご挨拶させて頂く次第です。

今後とも乗組員一同、どうぞ宜しくお願い致します。

3. 香川の「海猿」

映画で有名になった「海猿」は、海上保安庁の潜水土です。ですが、潜水土というのはすべての巡視船に配属されているわけではありません。数ある巡視船のなかから指定された特別な船にのみ「海猿」が乗船しています。そうした巡視船のひとつが高松海上保安部所属の巡視船「くまの」です。今回はくまのの小南潜水土から、友の会の皆様へのメッセージをお送りします。

*****「潜水土」*****

「水深40メートル、使えるボンベは1本、残圧30、バディと取り残された、お前ならどうする？」

映画の「海猿」を観たことのある方ならこの台詞を聞いたことがあるでしょう。実際にこの状況に遭遇した場合、この問いに対する答えは映画でもそうだったように日本全国に配置された海上保安庁の各潜水土それぞれが違った意見を持っていると思います。そしてその一つ一つがこの問いの正しい答えであり、答えは決して1つではありません。そして、その自分の考える答えを迷いなく完璧に行えるように日々訓練を繰り返し、海で救助を求める人はすべて救助する。これが我々潜水土の行っている救難業務です。

少し堅苦しい紹介になりましたが・・・、申し遅れました、そんな志を持ちつつ日々「明るく楽しく」業務に打ち込む巡視船くまの潜水土小南です。それではまず私の愛して止まない「防災指定&潜水指定船くまの」のプチ自慢をします！毎分3,000ℓ放水可能な放水銃2基、粉末放射銃1基、曳航装置（10万トクラスの船まで曳航可能）、オイルフェンス360ℓ、その他防災設備満載！そして潜水土も7人配属のPM型巡視船です。

そんな瀬戸内海東部の防災の要的存在のくまのに乗船して1年半、緊張しまくりの潜水初出勤を含め様々な海難に出動しましたが、やはり海難救助作業は非常に困難を極めます、海難救助作業には当然マニュアルはなく、まったく同じ海難は存在しません、そんな多種多様な海難に対応し救助するためには多くの技術・知識を習得することが必要です、その為に我々潜水土、くまの乗組員は厳しい救難訓練に耐え技術・知識を磨く毎日です。



係留索を使用した渡過訓練
（これがまたキツイ！！体力を使い果たし海に落ちる人も・・・。）

くまのの重要な業務の中で、海上保安大学校での潜水研修支援があります。これは全国から人命救助を志し潜水土になるべく海上保安大学校に集まった海上保安官に潜水の基礎を教え研修を支援する業務（映画「海猿」の教官ですね）です。自らの知識・技術を研修生に伝える

と同時に、自分自身も基礎を再確認するという非常に奥深い業務です。自分が理解していることであってもそれを人に伝えるのはなかなか難しいもので、上手く伝えられたときの喜びは大きいものです。



潜水研修での後方飛び込み
（上の段からです！高さは約3
メートル！！めっちゃ怖かったあ～！！！！）

潜水研修は映画「海猿」でも描かれてましたが実際の研修は映画よりももっと厳しく過酷なものです。しかしこの研修で得るものは非常に多く私はこの研修を修了することによって知識・技術だけでなく自信も手に入れることができ、この自信は現在の潜水土としての業務においても大きく役立っています。

とても簡単な紹介になってしまいましたが、ここで書かせていただいた潜水業務、くまのの業務はいずれもほんの一部であり、この他にも数多くの業務、救難訓練を日々行っています。通常我々の救難訓練は体験航海等の

イベントでしかお目にかかる機会はないのですが巡視船くまの、潜水土どちらかに興味、関心があれば是非気軽に巡視船くまのまで遊びに来て下さい、タイミングが合えばみなさんの期待、信頼に応えるべく真剣に救難訓練に取り組む潜水土、くまの乗組員の姿をお見せできることと思います。

以上、現場より小南がお伝えしました。それではまたお会いする日まで・・・、

「ボンボヤージ！！」（訳 ＝ 良き航海を！！）

4 . 夏の出来事

1 . 海の日・体験航海・一日船長保安部長

「海の日」7月17日に高松港で巡視船の体験航海イベントが実施されました。当日、「一日保安部長、一日船長」が委嘱され、午前の部、午後の部合わせて、4名の公募の中学生の皆様がそれぞれ一日部長、一日船長を体験されました。午後の一日保安部長には、友の会家族会員である香西明佑美さんに委嘱され、式典の後巡視船くまのの船橋に乗り組みました。当日は昼過ぎからあいにくの雨模様になりましたが、一日部長はくまの上部甲板にて巡視船くりなみをはじめとする参加船艇からの敬礼にたいして、しっかりと答礼をされるなど、体験航海のあいだ、「保安部長」としての仕事をさせていただきました。



2 . 図画コンクール

「未来に残そう青い海」をテーマに今年も海洋環境に関する図画コンクールを実施しました。高松海上保安部には高松市および近隣の小中学生から427点の応募がありました。保安部で選考した結果優秀作品9点選出し第六管区海上保安本部に送り、他の保安部で提出されたものと共にさらに上位の選考が行われます。

展示会のお知らせ

高松保安部に応募された全作品427点の展示会をサンポート高松シンボルトワー3Fさぬきプラザにて17日実施しますのでぜひご覧ください。枚数が多いので次の2区分で展示いたします。

10月17日から10月23日まで

高松市立屋島西、木太南、四番丁、古高松小学校、さぬき市立志度、中央小学校の方の作品

10月24日から10月31日まで

高松市立仏生山、庵治、日進、牟礼南、牟礼北小学校、東かがわ市立丹生小学校、高松市立勝賀中学校、さぬき私立長尾中学校の方の作品

5 . 高松海上保安部からのお知らせ・「せとしるべ」一般公開について

灯台記念日の行事の一環として「せとしるべ」(高松港玉藻防波堤灯台)の一般公開を下記日時でおこないます。「せとしるべ」はご存知のとおり夜間赤く輝くガラスの灯台で、高松港のシンボルになっておりますが、今回は初の試みとして**夜間点灯時間帯を含め**



ての公開をいたします。普段見ることのできない灯台の内部、および踊り場にまさに赤く光っているときに入場できますので、ぜひお誘い合わせの上ご来場ください。

日時 **11月2日(木) 16時から20時まで。**
11月3日(金) 12時から20時まで。

注意 内部ははしご段になっていきますので、飲酒された方、スカート、ハイヒール着用の方は危険ですので入場いただけませんので避けるようにお願いします。



5 . 事務局からのお知らせ

(1) 海上保安友の会香川支部会長の交代について

平成13年3月の海上保安友の会香川支部の発足以来、会長を務めていただいた真鍋康彦様(高松琴平電気鉄道株式会社社長)がこのたび9月1日限りで会長職を辞されることになりました。香川支部がこのような活発に活動が続けてこれたのも真鍋前会長様のご尽力の賜物であります。これまでほんとうにありがとうございました。新会長には、やはり発足時に多方面でご尽力いただき、香川支部の副会長を務めていただいております梅原利之様(四国旅客鉄道株式会社会長)に就任していただきました。梅原新会長におかれましては忙しい中での会長職でいろいろ大変かと思いますが、就任していただいたことを会員一同感謝すると共に、これからもよろしく願いいたします。

(2) 行事案内について・マルキン醤油記念館&二十四の瞳映画村見学会

友の会会員の方から提案いただいた企画を基に計画しました。

寒霞渓(かんかけい)の紅葉を眺めながら小豆島を散策してみませんか。

今回のプランに参加を希望される方は、10月31日(火)までに事務局(087-821-7013:平尾又は宮田)までご連絡下さい。【午前8時30分から午後5時までの間にお願いします。】

1. 実施年月日 18年11月11日(土)【天候により中止とする場合があります。】
サンポート高松小豆島行きフェリー乗り場集合【午前9時10分】

2. 行程

発地	発時間	着地	着時間	交通機関	料 金	備 考
高松港	09:30	草壁港	10:30	内海フェリー	往復 大人¥1,090 12歳未満¥560	
草壁港	10:42	マルキン醤油 記念館前	10:50	路線バス	片道 大人¥190 12歳未満¥100	記念館見学 10:50～11:25 入館料 (団体15人以上:高校生以上 160円、小中学生70円) 個人:高校生以上210円、小 中学生100円
マルキン醤油 記念館前	11:33	二十四の 瞳映画村	11:53	岬めぐりバス	片道 大人¥380 12歳未満¥190	映画村見学 12:00～15:00 入館料 (団体20人以上:大人570円、 中高生290円、小学生190円) 個人:大人630円、中高生 320円、小学生210円
二十四の 瞳映画村	15:10	草壁港	15:38	岬めぐりバス	片道 大人¥490 12歳未満¥250	
草壁港	16:15	高松港	17:15	内海フェリー		

土庄から参加される方は

【往路】土庄ターミナル前 10:10～(草壁港 10:42)～マルキン醤油記念館前 10:50

[大人¥750、12歳未満¥380]

【復路】(二十四の瞳映画村 15:10～草壁港 15:38) 草壁港 16:13～土庄ターミナル前 16:41

[大人¥650、12歳未満¥330]

3. 必要経費(個人負担)の目安

	フェリー料金(往復)	バス料金(往復)	入館料(団体)	弁当代	合計
高松港からの参加	12歳以上 1,090	1,060	730	985	3,865円
	12歳未満 560	540	360	985	2,445円
土庄からの参加	12歳以上 0	2,270	730	985	3,985円
	12歳未満 0	1,140	360	985	2,485円

(注1) 参加者が少数で団体扱いとならない場合、必要経費は増額になります。

(注2) 弁当を必要としない方は参加希望の連絡時にお知らせ下さい。

(注3) フェリー乗船券の購入、バス料金の精算は、参加者個人でお願いします。

(注4) 醤油記念館、映画村の入館料及び弁当代は、当日、徴収させていただきます。

4. フェリー往路の行程で航路標識(灯台、灯浮標)についての勉強会を行なう予定です。

(3) 会員の状況について

平成18年10月1日現在の会員の状況は次のようになっております。

平成18年 10月1日現在の会員数 正会員 104名 家族会員 69名

平成18年 今年度新規で会員になられた方の数 正会員 11名 家族会員 9名

お知り合いの方で入りたいという方がいらっしゃいましたらお誘いしてください。

*** 海上保安友の会香川支部 ***
事務局 高松海上保安部内 電話
087-821-7013 担当 平尾

愛します! 守ります! 日本の海

ゆうなぎ 第13号
発行 海上保安友の会香川支部
平成18年10月1日

